



小池 光選

車中にて長き化粧を終へし後スマホ見ながらパンを食へ出す
稲城市 山口 佳紀

【評】最近の若い女性のふるまいをじつと観察する歌。ねんごろな化粧が終わったと思ったら、スマホしながらパンを食へ出す。彼女らとしてもお腹はすくのである。

十七で嫁ぎ十八で我を産み十九で母逝きましぬ
京都市 岩淵 慶子

【評】九十九歳で亡くなった母の生涯を思う。どんな苦労があったことだろう。十七歳で嫁ぎ、十八歳でわたしを産む。ただそれだけの事実がこの上なく重い。

病院の待合室のテレビは見ずただ白き壁見詰め居たり
下田市 後藤 瑞義

【評】病院の待合室にはたいいていテレビがある。わが病はどうなるか、不安でいっぱい。ただ壁を見て名前呼ばれるのを待つ。

亡き妻を連れ添ふごとくテパートの北海道展を一人さまよふ
東京都 尾崎 永治

百里浜ではなく九十九里浜と名付けるようなところが欲しい
さいたま市 小川 希空

駄菓子屋に入りびたりたる時ありき力道山が強かった頃
匠瑠市 椎名 昭雄

賞味期限とうに過ぎたる納豆をえいとばかり舌のせたり
伊勢原市 佐藤 治代

今までの日本映画のベストワン「東京物語」まよわず選ぶ
東大阪市 池田 健一

新緑の林に入れば鳥の鳴き目にも耳にも生命のこゑす
上尾市 光谷三智子

小学の四年生までは算数を教えてくれたお母ちゃんだった
守谷市 久保田洋二

栗木 京子選

有明の海の彼方のきのこ雲八十年経ても忘れず
熊谷市 有田 義正

【評】一九四五年八月九日、作者は疎開先の熊本海岸から長崎県上空の原子爆弾の雲を見た。真夏の有明海と大空。自然界を背景にした悲惨な光景に胸が締め付けられる。

近隣の店で妊婦を見かけた大発見のように妻言う
盛岡市 舟山 治男

【評】高齢化が進む地域なのだろう。近隣の店に来ていたのだから、妊婦は旅行者でなく住人かもしれない。生まれる前から期待されている新しい命。「大発見」に納得した。

門前で梅の実一つ拾ひ上げ青葉を探り豊饒を知る
さいたま市 春日 重信

【評】拾った梅の実を頼りに青葉をかき分けると、たくさん生っていることを知った。「門前」と「豊饒」に格調の高さを感じる。

放哉の逝きたる島のゆふぐれに浄土のごとく金蘭は咲く
高松市 島田 章平

転た寝の我に触れたる小さき手曾孫は頬を何度も撫でる
西東京市 佐々木節子

生温き風に二の腕撫でられて木陰にすっと夏が立って
札幌市 橋 晃弘

満開のリラの木のした老人の紫煙たなびく魔線路かな
小樽市 石田ちづる

ただ一度恋と呼ぶるところまで行きたる夏の遠き噴水
垂水市 岩元 秀人

雨の日は仕立て仕事に専念し針にと亡母は働きし
市川市 大和田弓子

ほととぎす鳴けば笹百合咲くころよ坂を歩みて香りがきゆく
益田市 柳井 文江

俵 万智選

「祝全国大会出場」の垂れ幕に我が名を入れてみるバスの窓
東京都 富見井高志

【評】校舎の外壁に晴れがましく下がっている垂れ幕。ふと目にした光景から膨らんだ想像(妄想?)が楽しい。全国大会を目指した青春が、作者にもあったのだろうか。

おれ以外にも同じこと言っただろうChatGPTはやさしい
大阪市 畑 依裕

【評】最近のAIは、なかなかよくできていて、悩みや愚痴にもうまく対応してくれる。上の句でツツコミを入れた、その優しさに降参する結句に実感がある。

Eテレの子育て番組観る吾のメガネについた娘の指紋
茅ヶ崎市 大久保圭佑

【評】教育番組を見るのは親のほうで、娘はメガネを取ろうと挑んでくる。「指紋」に娘の動きを語らせたところがいい。

退院の父の顔には無精ひげあつて生命力を感じる
堺市 一條 智美

焼きたてで買ったパンだが買いたてでなくなつたから結果は同じ
東京都 武藤 義哉

与えれば離れてゆくこと知ながら丹念に濾す初めの粥
朝霞市 桐島 あお

わかることは決して言えない苦しみは今宵もいいね押すかで迷う
長崎市 佐々木泰三

おひかえなすっての手でそっぽ向いて暗証番号絶対見ない
京都市 美 桜

畑土の温もりたしかめ子に送る「マンズナル」とふ隠元を播く
青森市 安田 漢子

私だけ朝顔の芽が出なかった思い出は今も生きる源
大阪市 三木モワレ

黒瀬 珂瀾選

推しの出るドラマのエキストラ募集「老若男女問わず」に揺れる
三原市 天崎 千寿

【評】テレビの撮影でしよう。ワンチャン、推しに会えるかも!と思ういてもたってもいられませんか。現代らしい面白い場面を切り取って、揺れる心を表現した一首です。

診察がひっきりなしの狭き床どっかり置かるるウーバーイーツ
札幌市 丸ヶ崎結子

【評】よほど患者さんが多い医院なんだろう。医師はゆっくり食事する時間もなく、診察にいそむ。そんな様子を、医師の姿を描かずに表現した点がユニークです。

夏野菜の無人販売所まで行けばたっぷり汗かく夏日となりぬ
静岡市 柴田 和彦

【評】汗をかくて歩いてゆけば、新鮮な野菜が手に入る。ついにやってきた暑い季節の静かな風景です。「夏」の繰り返しが印象的。

夕やけのしづかに展ぐ大空を音なく渡る二羽の白鳥
北九州市 田浦チサ子

乾杯を交わすともがら先に逝き献杯しては我が番を待つ
小浜市 坪田 忠広

亡き父のカードケースに仕舞われしポイントカードあり画材屋の
千葉市 佐藤 綾子

YouTubeでフォローしていた闘病の動画しばらく更新されず
東京都 佐藤 一郎

反戦運動 平和運動 いつの日か時代遅れとなること願う
東京都 井上 寿美

戦争を知らない私が戦争しか知らない子どもへ送るエンピツ
鴨川市 春木 敦子

花開くとき笑顔むけられしステンドグラス前の待ち合わせ
奥州市 境 朝子